HONDA
The Power of Dreams

本田技研工業株式会社　安全運転普及本部
〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1
TEL:03-5412-1736 FAX:03-5412-1737

HONDA
The Power of Dreams

Hondaの安全運転普及活動報告書

2017

Safety for Everyone

すべての人の安全をめざして

Contents

P 03　ごあいさつ
本田技研工業株式会社　専務取締役
安全運転普及本部　本部長　竹内弘平

P 04　Honda の安全に対する考え方
Safety for Everyone　すべての人の安全をめざして

P 05　2017 年の振り返り
新たな時代を見据え、安全運転普及活動を進化

P 06　特集：参加体験型の実践教育の進化 01
先進の安全運転支援システムに対する正しい理解の普及のために

P 07　特集：参加体験型の実践教育の進化 02
一人ひとりの運転習慣を可視化することで気づきを促し、行動変容へと導く

P 08　教育機器開発
社会や時代のニーズに合わせてシミュレーターやソフトを進化

P 10　地域指導者への支援
先進性・独自性のある教育プログラムを開発し、地域指導者に提供

P 12　販売会社の活動
手渡しで安全を伝える活動でお客様や地域との絆を深める

P 14　安全運転普及活動の情報公開
交通安全に関する有効な情報を Web サイトで常時公開

P 15　交通安全の実現に向けた教育教材と機器
子どもからシニアまで交通安全を学べる教材

P 16　交通教育センターの活動
参加体験型の実践教育による企業・団体や個人への安全運転教育

P 18　関係諸団体との連携
交通事故の低減に向けた関係諸団体との連携

P 20　福祉領域における活動
各地域で自立した安心安全な移動手段を確保するための教育ができるようサポート

P 22　海外における活動
現地の交通事情に応じて展開される安全運転普及活動を支援

ごあいさつ

本田技研工業株式会社　専務取締役
安全運転普及本部　本部長

竹内 弘平

日頃から Honda の安全運転普及活動に多大なるご理解、ご支援を賜り、誠にありがとうございます。今年も様々な活動を国内外で展開することができました。これも皆様のお陰によるものと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

今、自動車産業は百年に一度とも言われる大きな波の始まりに直面しています。パワートレーンの変革である電動化と自動運転も含めたクルマの知能化を実現しようとする２つの波です。この大きな変化は自動車産業のみならず社会経済に与えるインパクトも非常に大きなものになると予測しています。
このような中にあってなお、Honda は「社会から存在を期待される企業」であるための指針として「2030 年ビジョン」を今年策定しました。そのビジョンステートメントは、『「移動の進化」と「暮らしの価値創造」という二つの領域で、すべての人に「生活の可能性が拡がる喜び」を提供する』というものです。
人々の夢と可能性を拡げるような価値を提供すること、そして熱き想いで新しいことにチャレンジすること、これが Honda の普遍の想いです。このステートメントを実現するために具体的に取り組む方向性を、「喜びの創造」「喜びの拡大」「喜びを次世代へ」の３点に定めました。「喜びの創造」とは、「移動」と「暮らし」の価値創造であり、「喜びの拡大」とは「多様な社会･個人への対応」です。そして、「喜びを次世代へ」とは、クリーンで安心・安全な社会を目指し、CO2 排出ゼロと「交通事故ゼロ社会の実現」をリードしていくことです。

「交通事故ゼロ社会の実現」に当たっては、従来より掲げています「Safety for Everyone」というグローバル安全スローガンに基づき、安全技術、安全情報、安全教育の３つの領域を進化、相互に連携させることに一層注力して参ります。
安全技術については、完全自動運転可能なクルマの将来実用化を目指し、その過程で搭載される先進の安全運転支援システムによる交通事故抑止・被害軽減に対する期待は非常に高いものがあります。Honda も日本においては、この夏発売した軽自動車 N-BOX 以降のモデルについて「Honda SENSING」を標準化し、早く広く普及を図っています。

一方、世界的視野でみると年間 120 万人を超える方々が交通事故で亡くなっており、特に新興国を中心に深刻な状況です。日本においても減少はしているものの、昨年約４千人近い人が交通事故で亡くなっています。四輪車の安全技術の普及拡大に加え、二輪車の安全な乗り方についての教育や子どもの交通安全教育といった、人に焦点を当てた活動も時代や地域に応じて進化、現地化させることが依然として必要です。

安全運転普及本部は本年組織を改編し、今後の活動方針に適応できる体制にしました。５地区の普及活動拠点を青山の本部に集約し、地域の交通指導員､関係団体や他部門との連携を保ちつつ現場のニーズに基づいた使い易く、効果的な教育プログラムを本部一体となって開発・普及して参ります。

いくつか事例をご紹介しますと、子ども向けの教育では、昨年の幼児向けの教育プログラムに続き、今年は小学１～２年生向けのプログラムを完成させ、普及を開始しました。これにより、幼児から中高生までの体系的なプログラムが揃いました。

また、日本での「Honda SENSING」の普及拡大に伴い、ユーザーの機能に対する誤解や過信を取り除き、正しい理解のもと使っていただくよう、営業部門と連携して販売会社スタッフの説明知識充実や試乗体験の運営方法等を再度徹底するための研修会開催に着手しました。今後、本格的に研修会を展開する予定です。

海外では、アジアを中心に Honda の海外事業所が中核となって販売店と共に運転者教育、子ども教育など様々な活動を積極的に展開しています。今年３月には Honda としてベトナムに新しい交通教育センターがオープンし、より幅広く地域社会の交通安全に貢献できる体制ができました。今後もノウハウ提供や人材育成など現地ニーズに応じた支援を継続します。

Honda は「交通事故ゼロ社会の実現」を目指し､これまで以上に行政、関係団体、地域社会など多くの皆様と連携を深めながら、交通安全に取り組んで参ります。

最後に、皆様の益々のご健勝とご発展をお祈りするとともに、Honda への変わらぬご理解､ご支援をよろしくお願い申し上げます。

Safety for Everyone

すべての人の安全をめざして

クルマやバイクに乗っている人だけでなく、社会の誰もが安心し、安全に暮らせる「事故に遭わない社会」をつくりたい、それが Honda の願いです。こうした交通事故ゼロ社会の実現に向け、わたしたちは「ヒト（安全教育）」「テクノロジー（安全技術）」「コミュニケーション（安全情報）」の３つの領域で、それぞれを高めると同時に相互の連携を図っていきます。

安全推進活動の３つの領域

ヒト

安全教育

安全運転知識や技術、教育を幅広く社会に提供していく。

テクノロジー

安全技術

道路ユーザーすべての安全を考え、さらに効果の高い技術を普及させていく。

コミュニケーション 安全情報

情報、コンテンツを融合させ、コミュニケーションで安全意識を高めていく。

交通事故ゼロ社会の実現をリードする存在をめざす

安全運転普及本部の指針と推進体制

安全運転普及本部は交通安全の普及・推進を目的に 1970 年発足以来、交通安全に関わる様々なノウハウ・機器教材・情報を提供してきました。また活動では、危険を安全に体験する「参加体験型の実践教育」を通して、お客様や地域社会の皆様がふれあいの中で学ぶ「人から人への手渡しの安全」に重点を置いています。今後も Honda グループによる交通安全の普及活動を主体的に推進し、関係者・団体による各種活動への積極的な支援を継続していきます。

活動の基本

「人から人への手渡しの安全」

＋

「参加体験型の実践教育」

すべての人

運転者だけでなく
幼児から高齢者まで

交通安全教育 / 啓発活動

交通教育センター ／ 海外事業所 ／ 二・四輪販売会社 ／ 行政・業界 ／ 自動車教習所 ／ 病院 ／ 地域指導者 ／ 学校 ／ 取引先企業

ノウハウ・教材提供 / 活動支援

安全運転普及本部

社内外と連携し、すべての人への交通安全活動を実施

新たな時代を見据え、安全運転普及活動を進化

2030 年ビジョンに掲げた「交通事故ゼロ社会の実現」に向けて、安全運転普及活動が果たす役割は大きくなっています。2017 年も「人から人への手渡しの安全」と「参加体験型の実践教育」を基本として、新たな時代を見据えながら、交通社会の変化やニーズに合わせ、活動を進化させました。

お客様に対する先進の安全運転支援システムの普及拡大のための正しい理解

衝突軽減ブレーキや誤発進抑制機能といった安全運転支援システム「Honda SENSING」を普及させるためには、搭載率向上に加え、お客様に手渡しで、その効果や限界について正しく理解していただくことが重要です。そこで、四輪販売会社においてお客様と接するスタッフがシステムの理解を深め、同時に販売店などでの試乗体験を安全に運営するためのプログラムを開発。来年の本格的な実施に向けて、研修会を試行しました。

自身の運転の課題に気づいてもらい、行動の改善につなげるシステムを開発

鈴鹿サーキット交通教育センターでは企業の安全運転研修などにおいて、自己評価と客観評価との差異を受講者に認識してもらうことにより、運転意識と行動の変容を促す研修を提供してきました。今年は、この研修のベースとなっているシステムを刷新。個々人の運転習慣の可視化がより明確となり、評価への納得性が飛躍的に向上しました。

児童への新たな教育プログラムの開発

歩行中の交通事故死傷者数を年齢別にみると、７歳児が突出していることから、この年齢を含む小学校低学年を対象にした新たな教育プログラムを開発しました。このプログラムは、道路歩行時の危険予測を題材に、児童に「どうして危ないのか」を考えさせ、気づきを促し、答えを導き出すところが特徴です。また、児童が道路横断時の安全確認の体験もできるようになっています。

このほか、今年は危険予測教育を充実させる機能を搭載した Honda ライディングシミュレーターをモデルチェンジし発売。
また、「SAFETY MAP」に反映される急ブレーキ情報などを、道路改善などの事故防止策に役立てていただくため、昨年の大阪府警察本部、長野県警察本部に続き、千葉県警察本部、警視庁と交通事故防止対策の推進に向けた協定を締結しました。

高次脳機能障がい者の運転再開に向けた取り組みでは、各地域で自立して活動していただくため、沖縄県での指定自動車学校協会と作業療法士会との連携活動をサポートしました。

海外においては、Honda ベトナムが３月に新たな交通教育センターを開設。安全運転普及本部は、現地のインストラクターのスキルアップに協力しました。

２０１８年に向けて

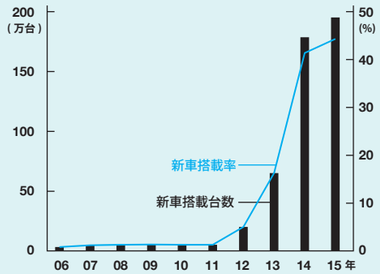
今後も様々な取り組みを通じて、「交通事故ゼロ社会の実現」をめざしていきたいと考えています。そして、皆様の期待に応えられますよう、より一層活動を進化させてまいります。

※活動内容の詳細につきましては、次ページ以降に記載しています。

先進の安全運転支援システムに対する正しい理解の普及のために

自動運転技術が注目され、政府が安全運転サポート車（セーフティ・サポートカー・略称：サポカー）の普及を図る中、衝突軽減ブレーキ（いわゆる自動ブレーキ）搭載車の販売比率は 2014 年から急速に増え、2015 年には半数近くの新車に搭載されました。Honda がこの夏発売した軽自動車 N-BOX には、衝突軽減ブレーキ（CMBS）を含む先進の安全運転支援システム「Honda SENSING」（下記参照）が標準装備されています。このような新技術の普及拡大のためには搭載率の向上に加えて、お客様にその機能の効果や限界について正しく理解していただく事が重要です。

国内乗用車メーカー８社が生産する新車（乗用車・貨物車）に占める自動ブレーキ (対車両) の台数・割合



国土交通省資料（２０１７年）を基に作成

座学では「Honda SENSING」の仕組みと作動原理を学習

交通教育センターレインボー埼玉のインストラクターはお客様への「Honda SENSING」の説明と合わせて、安全運転のためのアドバイス方法も指導

前走車・歩行者・対向車との衝突回避または被害軽減のための支援を段階的に行う衝突軽減ブレーキの試乗体験

研修会では参加者が互いにお客様役とスタッフ役になり、わかりやすく説明するためのロールプレイも実施

「Honda SENSING」の正しい理解の普及のためにはお客様に直接手渡しで安全をお届けする営業スタッフの理解がポイントです。そこで、安全運転普及本部（以下 安運本部）は Honda Cars（四輪販売会社）のスタッフがお客様一人ひとりにシステムの正しい説明ができると同時に販売店などでの試乗体験を安全に運営するための研修プログラムを作成。11 月に交通教育センターレインボー埼玉で、埼玉県内の Honda Cars のスタッフ 23 名を対象に研修会を試行しました。研修会の座学では、「Honda SENSING」の仕組みと作動原理を学習。その後、実車で衝突軽減ブレーキや誤発進抑制機能を体験し、各機能の能力には効果と限界があるため、過信をせずに安全運転することの重要性を学びます。最後に、お客様に安全運転に向けたアドバイスをするためのロールプレイや理解度を確認するためのテストを行い、１日にわたる研修会は終了しました。研修会で講師を担当した本田技研工業（株）日本本部営業企画部商品ブランド課主幹の吉田秀彦は「座学と体験によってスタッフの皆さんが「Honda SENSING」への理解を深めることで、お客様によりわかりやすく説明ができると考えています」と話します。参加者からは「実際に体験したことで、機能には限界があることを再認識できました」「衝突軽減ブレーキは、警告音を聞いてから自分でブレーキを踏んでもぶつからずに止まれたので、とても安全な機能だと実感できました。お客様に自信を持って勧められそうです」という声が聞かれました。

今後は、この研修会を全国で開催していく予定です。受講したスタッフを通じ、お客様の理解を促進していくことで、真の安全の普及に寄与できると考えています。

Honda SENSING

※車種により搭載機能が異なります。

①衝突軽減ブレーキ〈CMBS〉
②誤発進抑制機能
③後方誤発進抑制機能
④歩行者事故低減ステアリング
⑤路外逸脱抑制機能
⑥ACC〈アダプティブ・クルーズ・コントロール〉
⑦LKAS〈車線維持支援システム〉
⑧オートハイビーム
⑨先行車発進お知らせ機能
⑩標識認識機能

詳細は以下のホームページ参照。
http://www.honda.co.jp/hondasensing/

一人ひとりの運転習慣を可視化することで気づきを促し、行動変容へと導く

Honda の交通教育センター（P16 参照）で開催している安全運転研修も、受講者一人ひとりにきめ細かく対応していくため、進化させています。鈴鹿サーキット交通教育センターで研修内容の 1 つとして実施している運転習慣チェックプログラムは、実走行で計測した客観的評価と、運転に対する質問に答える自己評価の結果を比較することで受講者に自身の課題に気づいてもらい、行動の改善につなげることを目的としています。同センターはプログラムのベースとなるシステムを（株）本田技術研究所の新しい車両解析技術を活用することにより、DSP（Driving Style Proposal＝運転行動スタイル提案）システムとして刷新。2017 年から本格的な運用を開始しました。

DSP システムを搭載した車両を運転、指定されたコースを走行。
コースは 1 周約 800m。一時停止場所や急カーブ、上り下り、右左折、横断歩道の通過など 9 ヵ所のチェックポイントを通過

車内に設置されたタブレット端末の質問に自己評価を入力

アクセルやブレーキ、ウインカーの操作状況、加減速時などに発生する G（加速度 ）、コースの走行軌跡を測定したデータと客観 VS 自己評価が比較された評価表を配布 (1 回目)

参加者間で安全運転行動について走行の動画表示を見ながらディスカッションすることで気づきを促す

再度、同じコースを走行し、測定データと評価表を配付（2 回目）。
1 回目と 2 回目の測定データと評価表を比較して、自身の運転がどのように変化したかを確認

新たな気づきへ

DSP システムへの導入によって、個々人の運転習慣の可視化がより明確となり、評価への納得性が飛躍的に向上しました。受講者一人ひとりの実走行データ（運転操作の状況やクルマの挙動）と、一般的に安全とされる行動や操作を比較することで、受講者の新たな気づきにつなげます。

鈴鹿サーキット交通教育センター所長の平井真さんは、より説得力をもって受講者に伝えられるようになったと話しています。「運転経験の長い参加者も『きちんとできているつもりだったが、データを見て、できていないことがわかった』と納得していただけるようです。２回の運転データを比較することで、どのように改善されたかも受講者に確認してもらうことができます」。

DSP システムによる運転習慣チェックプログラムを利用した受講者は「自分の運転行動が一目瞭然で示されるので、参考になりました。自分では気づかないことに気づかせてくれ、納得感があります」と感想を語っています。

この運転習慣チェックプログラムは鈴鹿サーキット交通教育センターでの様々な企業の安全運転研修で活用され、受講したドライバーのデータが蓄積されています。これらの蓄積から、自身の運転行動が運転者全体の中で、あるいは所属する組織の中で、どこに位置するのかを示すことができ、より納得性の高い教育に結びつけられると考えています。

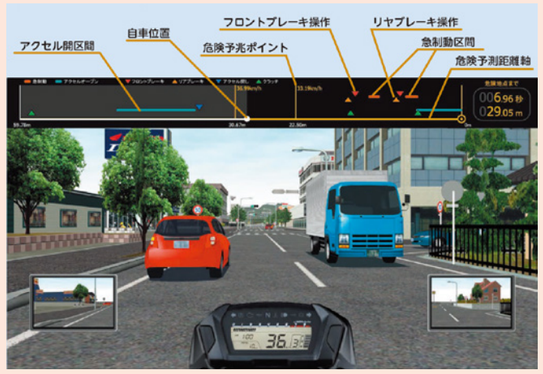
社会や時代のニーズに合わせてシミュレーターやソフトを進化

Honda は長年培った安全運転のノウハウを活かし、シミュレーターをはじめ、さまざまな交通安全の現場で活用していただくための教育機器やソフトを提供しています。そして、社会のニーズに合わせ進化させています。

３代目となる新型 Honda ライディングシミュレーター

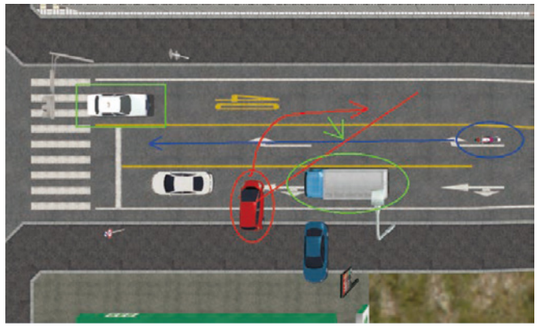
指導の表現力を向上させた Honda ライディングシミュレーター

路上での実施が困難な二輪車の危険予測トレーニングを仮想空間で行える安全運転教育機器として開発したのが Honda ライディングシミュレーターです。１９９６年の発売以来、多くの自動車教習所で二輪免許の取得やライダーの再教育用として活用されています。
昨年１０月、運転シミュレーター型式認定基準が改正され、二輪免許の教習に新シミュレーターの運用が可能となりました。これを受け、今年１１月にライディングシミュレーターをモデルチェンジ。３代目となる新型は走行中の危険箇所に対し、どの地点で危険を感じ取ったのか、その時の運転行動を記録し、走行再生時に表示する事で、より高度な危険予知能力を養うことができる「危険予測表示機能」など、危険予測の学習ができるソフトを充実させ、指導の表現力を高めました。さらに、より多くの教習所で活用していただけるよう軽量・コンパクト化を実現。コンパクトながらも AT 車と MT 車、さらに普通二輪車、大型二輪車のいずれの教習にも対応しています。



「危険予測表示機能」で走行時の操作を記録（画面はイメージ）
※平成２５年１０月１８日 特許出願 特願 2013-217839

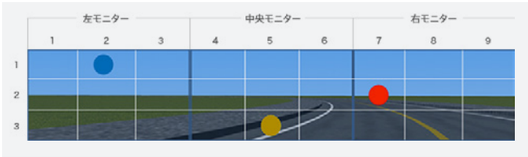
新型は省スペースを追求



「描画ウインドウ」で指導ポイントをモニターに表示

自車と他車の距離、自車速度から路面状況に応じた、運転の“余裕度”を分析・表示

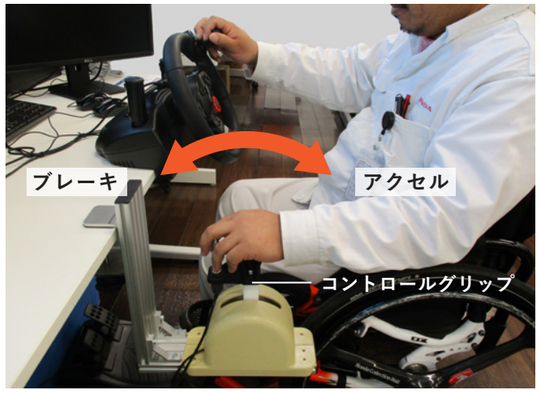
リハビリテーション向け新ソフトの追加



●＝そのまま踏み続ける（何もしない）
●＝アクセルをはなして、またすぐに進む
●＝右足でブレーキを踏んで、またアクセルを踏む
軽度な半側空間無視を検出するソフト
３種類のマークを画面内の２７区画にランダムに表示する

高次脳機能障がいでお身体が不自由になった方はリハビリテーションを経て、社会復帰をめざします。その中には、運転の再開を希望される方もいます。このようなリハビリ中の方の運転に対する評価や訓練を支援するため、Honda は四輪用ドライビングシミュレーターの技術を活用して、「リハビリテーション向け運転能力評価サポートソフト（以下、サポートソフト）」を開発。２０１２年の発売以来、多くの病棟施設がサポートソフトを導入し、実車による実技訓練と並行して運転を再開できるかどうかの判断材料として活用されています。
今年は、軽度な半側空間無視を検出するソフトを新規開発しました。従来涌り３面ディスプレイを使用しながら、３種類のマークを各指定位置に表示し、あらかじめ決められたコースを走行検査します。マーク表示内容における正解率および誤反応回数と反応時間の平均値、道路走行車線からのズレ等を数値化し、よりきめ細かな結果を帳票として出力が可能となり、半側空間無視を評価できます。
また、下肢が不自由な方がサポートソフトを利用、訓練する際に両手でアクセル・ブレーキ・ハンドル操作をするための手動運転装置も改善しました。

多くの病棟施設に導入されている「リハビリテーション向け運転能力評価サポートソフト」



改善された手動運転装置

先進性・独自性のある教育プログラムを開発し、地域指導者に提供

Honda は、様々な年代や社会のニーズに合わせた新たなソフトウェアの開発を推進しています。
そして、先進性・独自性のある教育プログラムや教育機器、教材などの普及拡大にも努めています。

「できるニャンと交通安全を学ぶ 小学校低学年歩行編」

危険予測を題材とした小学校低学年向けプログラムを開発

アニメーション映像の DVD と映像指導と体験指導のマニュアルを収録した CD

日本での歩行中の交通事故死傷者数を年齢別にみると、７歳児が突出しています。そこで昨年開発した幼児向け交通安全教育プログラム「できるニャンと交通安全を学ぶ」の続編となる「小学校低学年歩行編」を完成させました。開発にあたっては幼児向け同様、交通安全指導者の意見を反映させ、効果的な普及につながるものをめざしました。その内容はアニメーションを活用した対話型のプログラムで、指導者からの一方的な指導ではなく、児童に「どうして危ないのか」を考えさせ、気づきを促し、双方向で答えを導き出す点が特徴です。映像編では、他者視点をわかりやすく伝えるために「上空からの見え方」や「運転者からの見え方」などをアニメーションとして取り入れています。また、体験編として、児童に道路横断時の安全確認を学んでもらう内容も組み込まれています。

映像編

危険な場面　異なる視点　安全のポイント

ポイントとなる場面で映像を止めて、道路状況に潜む危険や安全な歩き方を児童に問いかける

体験編

ボールをクルマに見立て、道路横断時に大切な「止まる」「観る」「待つ」を体験する

交通安全指導者の知識と経験を新たな教育プログラムの開発に活かす

Honda は、交通安全指導者の方々の経験を新たな教育プログラムの開発に活かすと共に、相互の指導方法の確認や意見交換を通じて指導力の向上に役立ててもらうための交通安全教育プログラム勉強会を定期的に開催しています。今年は埼玉県、愛知県、熊本県の３ヶ所で開催し、３９都道府県から１３５名の方々に参加いただき、現状の困り事について情報共有すると共に、課題を解決するためのアイデアを出し合い、プログラム開発に反映しています。

交通安全教育プログラム勉強会

手渡しで安全を伝える活動で お客様や地域との絆を深める

Honda は地域社会に交通安全の輪を広げるため、販売会社を通じた交通安全活動を行っています。販売会社では、店頭での安全アドバイスなど、お客様との触れ合いを大切にした手渡しの安全活動を実践しています。

Honda Cars 群馬のスタッフがまついだ保育園（群馬県安中市）で開催した交通安全教室

全国各地の Honda Cars が「あやとりぃ」を活用した幼児向け交通安全教室を開催

全国各地の Honda Cars（四輪販売会社）では、交通安全教育プログラム「あやとりぃ ひよこ編※(以下、あやとりぃ)」を活用した幼児向け交通安全教室を開催しています。この活動の定着のため、Honda Cars のスタッフが交通安全教室の指導者となるための研修会開催や、教室開催準備のためのマニュアル整備などのサポートを行なっています。既に全国 254社（10月末現在）の Honda Cars のスタッフが研修会を受講し、各販売拠点や近隣の幼稚園・保育園などに出向き、独自の工夫を加えながら開催しています。
鳥取県内の幼稚園で交通安全教室を開催している Honda Cars 山陰中央 法人販売課課長の入澤一志さんは「『あやとりぃ』を使った活動によって、子どもたちの交通安全への関心を高めていきたいと考えています。そして、これが家族で交通安全について話すきっかけとなり、家庭での教育の推進に役立つことを期待しています」と話しています。また、子どもと一緒に受講した保護者は「スタッフの方がイラストを使って説明してくれたので、小さい子どもにもわかりやすかったと思います」と感想を語りました。

※あやとりぃ ひよこ編＝4 ～ 5 歳児に幼稚園や保育園等の集団教育の中で「音（交通環境音）の理解」「必ず止まること」「必ず観ること」「信号機の理解」という交通安全の基本を繰り返し学ぶことができる交通安全教育プログラム。「あやとりぃ」は「あんぜんを やさしく ときあかし りかいして いただく」の略。

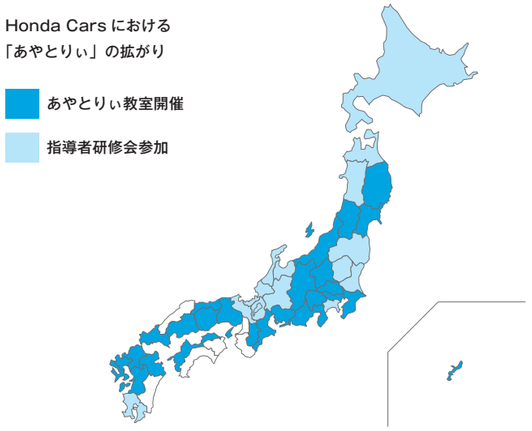
Honda Cars 山陰中央のスタッフと J リーグ加盟のサッカークラブ「ガイナーレ鳥取」のマスコットキャラクターが一緒に指導

Honda Cars 東京中央が愛宕警察署と共同で開催した交通安全教室

Honda Cars 岡山は 7 月に開催した同社のイベントの中で、来場した親子を対象に交通安全教室を開催

Honda Cars 駿河のスタッフが西方保育園（静岡県菊川市）で開催した交通安全教室

Honda Cars における
「あやとりぃ」の拡がり



Honda Cars 駿河では「あやとりぃ」だけでなく、Honda 交通安全かるたも活用

春と秋のセーフティキャンペーンに合わせ安全運転情報誌「Think Safety」を発行

Honda は全国交通安全運動に合わせて「セーフティキャンペーン」を実施しています。期間中は全スタッフが一丸となって、「無事故・無違反の継続活動の実施」を宣言し、自ら率先して交通安全を実践。お客様・地域の方に広く交通安全を普及しています。
その中で二輪・四輪販売会社の店頭ではお客様に安全運転を意識していただくため、全席シートベルトの着用、ヘルメットのあご紐の締め付けや日常点検実施のお声がけをしたり、啓発冊子をお渡しするなどの活動を行なっています。
また、今年は四輪販売会社を通じ、お客様に安全を手渡しするためのツールとして安全運転情報誌「Think Safety」を創刊しました。Honda の安全技術への理解を拡めるとともに、交通安全に関する社会の動向と合わせ、安全運転のためのアドバイスを紹介しています。

二輪販売会社では啓発ステッカーをお渡しするとともに交通安全のお声がけを実施

四輪販売会社を通じてお渡ししている安全運転情報誌「Think Safety」

交通安全に関する有効な情報を Web サイトで常時公開

ホンダ　安全運転　検索

交通安全 Web サイトと交通安全情報誌 SJ（セーフティジャパン）

Honda の「交通安全」Web サイト

デザインを一新した SJ フルカラー版

Honda の「交通安全」Web サイトでは、多岐にわたる活動の情報を常時公開しています。
交通安全に関心をお持ちの皆様が有効にご活用いただけるよう、教材や教育機器を紹介する様々なコンテンツを用意しております。
SJ は、1971 年 8 月の発刊以来、タイムリーな情報提供や Honda の交通安全教育のノウハウなど、様々な提案や普及活動を取材し掲載してきました。今後も交通事故ゼロを目指す皆様のオピニオン情報誌として引き続き情報を提供します。
Honda の Web サイトでも、SJ の全記事を毎号掲載しています。
http://www.honda.co.jp/safetyinfo/

第 4 回 Honda 交通安全ポスター・動画コンテスト

【ポスター部門】

「大賞」
山名 まりかさん
（静岡県）

「優秀賞」
村上 実紗子さん
（埼玉県）

「優秀賞」
滝下 花恋さん
（兵庫県）

「優秀賞」
末吉 裕太さん
（宮崎県）

「Honda 賞」
中塚 大輝さん
（滋賀県）

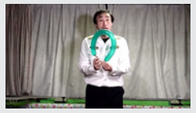
「Honda 賞」
本田 梨菜さん
（福井県）

【動画部門】

「大賞」米山 肇さん
（神奈川県）

「優秀賞」メディアサポーターズ映像部さん（愛媛県）

「優秀賞」南 裕翔さん
（奈良県）


「Honda 賞」和田 博喜さん
（京都府）

第４回 Honda 交通安全ポスター・動画コンテストには今回も数多くの応募がありました。４年目を迎える今年のテーマは「事故のないみらいを描こう ～子どもたちの笑顔のために～」です。ポスター部門（応募数４５５点）・動画部門（応募数１９点）の合計総数４７４点と、昨年と同様に多種多様な表現に富んだ個性的な作品が集まりました。Honda はお客様にこのコンテストに参加してもらうことで、安全について普段から考え行動するきっかけを作っていただきたい、という願いを込めています。厳正なる選考から「大賞」「優秀賞」「Honda 賞」の各賞が贈られました。受賞作品は Honda の Web サイトに掲載していますので、ぜひご覧ください。
http://www.honda.co.jp/safetyinfo/movie_contest/

子どもからシニアまで 交通安全を学べる教材

安全啓発小冊子「トラフィックシリーズ」

楽しく学ぶ「交通安全クイズ」

交通センスを身につける「危険予測トレーニング（KYT）」

Honda の Web サイト「交通安全への取組み」では、お子さまからシニアの方まで様々な年齢層の方々を対象にした教育教材を取り揃えています。
交通行動を理解するための小冊子「トラフィックシリーズ」をはじめとした冊子・パンフレットや交通安全の基礎知識が身につく「交通安全クイズ」など、直接 Web サイトからダウンロードしてご活用いただけます。そのほかにも、アニメーションで日常の交通環境に潜む危険について学べる「危険予測トレーニング（KYT）」などを常時公開していますので、是非ご活用ください。
http://www.honda.co.jp/safetyinfo/publish/

Honda の安全運転教育機器

安全運転普及活動に長年携わったノウハウを採り入れ、シミュレーターや危険予測教育機器など、多様な交通安全の現場でご活用いただける教育機器を各種提供しています。

Honda「セーフティナビ」

「環境」にやさしいエコドライブと「安全」な運転知識を楽しく学習できます。

Honda「自転車シミュレーター」

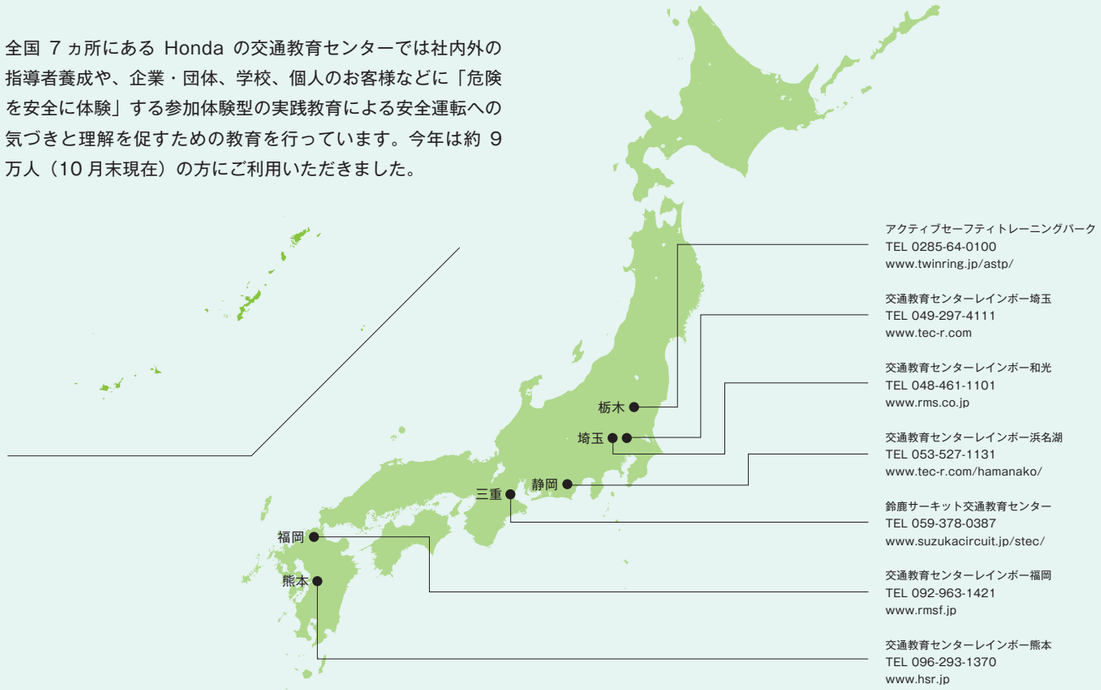
自転車を運転する際に起こりうる危険を安全に体験することで、危険予測能力や安全意識の向上を図ります。

リハビリテーション向け運転能力評価サポートソフト

四輪での運転復帰に向けて、運転に対する評価・訓練をサポートするソフト。運転環境の模擬的な再現により、運転操作における手足の複合的動作を確認できます。

参加体験型の実践教育による企業・団体や個人への安全運転教育

全国 7 ヵ所にある Honda の交通教育センターでは社内外の指導者養成や、企業・団体、学校、個人のお客様などに「危険を安全に体験」する参加体験型の実践教育による安全運転への気づきと理解を促すための教育を行っています。今年は約 9 万人（10 月末現在）の方にご利用いただきました。



企業・団体の目的に合わせた安全運転研修

企業・団体向けには、業務中の事故防止を目的として、安全管理の実態に応じたプログラムを提供しています。例えば、交通教育センターレインボー埼玉と交通教育センターレインボー浜名湖では、コカ・コーライーストジャパン（株）（本社：東京都港区）の新入社員を対象に安全運転研修を開催しています。新入社員一人ひとりの運転の特徴をインストラクターがチェックし、レポートをコカ・コーライーストジャパン（株）に提出。同社ではそれを配属先の上司と情報共有するなど、職場でのフォローアップに活用しています。このほか、交通教育センターレインボー埼玉では（株）ドミノ・ピザ ジャパン（本社：東京都千代田区）の店舗責任者となる社員を対象にした安全運転研修を毎月開催。三輪スクーターなどを利用して配達業務を担当するスタッフの指導に必要な安全運転の技術とマインドを身につけてもらうための教育を行っています。

コカ・コーライーストジャパン（株）の安全運転研修

（株）ドミノ・ピザ ジャパンの安全運転研修

高齢ドライバーに自分の運転を見つめ直してもらうためのスクール

実車走行ではインストラクターが助手席に同乗し、気になった場面をチェック

走行の様子をカメラで撮影

記録された走行の映像を使った振返り

アクティブセーフティトレーニングパークでは、栃木県内の高齢ドライバーを対象に「Honda 健康ドライブスクール（以下、スクール）」を定期的に開催。自分の運転の変化に気づいてもらうことで、交通事故に遭わないようにすることをめざしています。スクールで使用される安全運転教育プログラムは Honda が独自に開発したもので、「自分の運転行動を客観的に振り返る（自己観察法※）」「受講者自ら答えを見つけだす」ことが特徴です。受講者が実車で市街地コースを走行。その様子を車内外に設置したカメラで撮影し、速度や加減速の変化も記録します。その後、受講者が３名１組となり、記録された映像やデータをもとに各々の運転を振り返ります。スクールが始まった２００９年から２０１６年までに１０００名以上が受講。２０１７年からはトレーニング車両を含め、車載カメラやデータ記録装置を一新しました。

※自己観察法＝東北工業大学の太田博雄名誉教授らが（公財）国際交通安全学会などで研究成果を報告している手法。自分の運転をビデオで録画して観察し、「我が身振り見て、我が振り直す」手法。

中国にインストラクターを派遣し、大型二輪のお客様向けスクールの開催に協力

中国では大型二輪を利用するお客様が増えています。Honda は、こうしたお客様に安全意識を高めていただくためのスクールを中国の４都市で開催しています。アクティブセーフティトレーニングパークは今年、このスクールにインストラクターを派遣し、お客様の指導にあたるとともに、現地のスタッフにより効果的な開催・展開方法についてアドバイスしました。今後もインストラクターの派遣を継続し、講習内容などについても提案していく予定です。

アクティブセーフティトレーニングパークのインストラクターが中国のスクールで指導

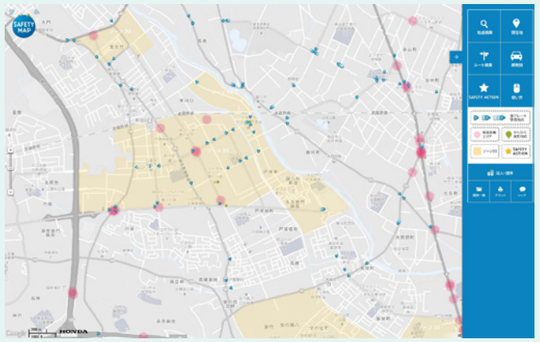
世界各国で活躍するHondaのインストラクターの指導力と運転技術の向上をめざす

１９９７年から開催している「セーフティジャパンインストラクター競技大会」。18 回目となる今年は、日本を含む１０ヵ国から７３名の選手が出場しました。今年は内容を大きく変更し、二輪・四輪の実技競技種目の見直しに加え、指導力向上・均質化をめざし、新たにグループワークを取り入れました。全参加者が "追突事故" "出会い頭事故" についてディスカッションと発表を行い、各国の交通環境を理解しながら様々な意見を交換することで、インストラクター活動に役立てるヒントを持ち帰りました。

第 18 回セーフティジャパン
インストラクター競技大会

交通事故の低減に向けた関係諸団体との連携

Honda は、交通安全活動をされている関係諸団体や業界の方々とも積極的に連携を深め、交通事故の低減に向けて取り組んでいます。



パソコン用「SAFETY MAP」(画面はイメージ)。日本中を走る Honda インターナビ (双方向通信型のカーナビ) 搭載車から通信で送られてくるデータをもとにした急ブレーキ多発地点情報をはじめ、事故多発エリア情報やゾーン３０情報などを表示。パソコンやスマートフォンで自由に閲覧でき、自分が危険だと感じた場所に投稿することも可能。詳細は以下の Web ページを参照ください。
https://safetymap.jp/

「SAFETY MAP」の急ブレーキ多発地点を基に現場を確認し対策した実施例

改善前

▼

改善後

警察、県庁、大学との連携

2016 年	大阪府警察本部 (協定締結) 長野県警察本部 (協定締結)
2017 年	千葉県警察本部 (協定締結) 警視庁 (協定締結) 広島県庁 (データ提供) 広島県警察本部 (データ提供) 大阪市立大学 (データ提供)

交通事故未然防止に向けた「SAFETY MAP」の活用

「SAFETY MAP」は運転者のみならず、歩行者・自転車利用者も含めたすべての交通参加者がパソコンやスマートフォンで自由に活用でき、皆様の声で作られていく安全マップです。また、個人の利用だけでなく、交通事故未然防止に活用する企業･団体も増えています。昨年の大阪府警察本部、長野県警察本部に続き、今年は千葉県警察本部、警視庁と交通事故防止対策の推進に関する協定を締結。

「SAFETY MAP」に表示されている急ブレーキ多発地点情報に関する詳細なデータを提供し、道路改善や安全教育の開催など交通事故未然防止に向けて相互に協力していくこととなりました。また、広島県庁や広島県警本部、大阪市立大学（兵庫県内データ）にも急ブレーキデータを提供し、事故情報と合わせて急ブレーキ情報を活用した多角的な事故分析に活用いただいています。

地域に根づいた安全運転の普及拡大のために

全国の自動車教習所教習指導員の皆様の自己研鑽への動機づけや交流の場の提供と、教習所の地域の交通教育センター化のサポートを目的に、本田技研工業（株）安全運転普及本部が主催し２００１年に始めた「全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」（後援：(一社) 全日本指定自動車教習所協会連合会、本田技研工業（株）法人営業部）は今年 17 回目を迎えました。会場となった鈴鹿サーキット交通教育センターで、全国 84 校 157 名の教習指導員の皆様が 2 日間にわたり競技に取り組みました。また、この大会には、全国 23 校 25 名の教習指導員の皆様に審判員としてもご協力いただき、ノウハウの提供も行っています。

第 17 回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会での二輪競技

第 17 回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会での四輪競技

二輪車関連団体などの活動にも積極的に協力

今年 50 回を迎えた（一財）全日本交通安全協会二輪車安全運転推進委員会が主催する「二輪車安全運転全国大会」での審判業務や、1969 年より警察庁が開催している「全国白バイ安全運転競技大会」でも審判業務や、車両整備などに協力しています。
また、(一社) 日本二輪車普及安全協会が開催する安全運転活動への各種協力や、(一社) 日本自動車工業会が推進する高校生二輪車安全運転指導の地域定着に向けた活動などにも協力しています。

第 50 回二輪車安全運転全国大会の審判業務などに協力

第 48 回全国白バイ安全運転競技大会の審判業務などに協力

各地域で自立した安心安全な移動手段を確保するための教育ができるようサポート

Honda は「より多くの人にクルマを操る楽しみを提供したい」「交通社会に参加するすべての人の安全を守りたい」という理念のもと、お身体の不自由な方々の交通社会復帰に向けた安全な移動手段確保のための教育機会を提供しています。さらに、各地域が自立してこの運転復帰プロセスを構築できるように、病棟施設や NPO 法人、自動車教習所を支援しています。

Honda が開発した福祉安全運転プログラム

自操安全運転プログラム

主に高次脳機能障がいを持った方を対象に、クルマの運転を通して社会復帰されることへの支援として開発したプログラム。運転時における現状の把握、見えた課題に対する訓練を行い、より安全に自由な移動を獲得してもらうことを目的としています。

Honda の交通教育センターで提供

▼

自動車教習所へノウハウを普及

移送安全運転プログラム

リハビリ施設やデイケアセンターへの送迎中の交通事故を予防し、利用者の安全安心を確保するために開発したプログラム。送迎運転者への運転アドバイスだけでなく、利用者の立場を体験し、利用者への配慮の大切さを理解してもらうことを目的としています。

Honda の交通教育センターで提供

▼

NPO 法人および四輪販売会社へノウハウを普及

▼

場と機会の拡大へ

自動車教習所と医療関係者が連携し、安心安全な運転復帰の輪を拡げる

沖縄県障がい者運転復帰に向けた教習所指導員講習会

作業療法士が患者役として運転し、助手席の教習指導員が自操プログラムを進行

Honda は自操安全運転プログラム（以下、自操プログラム）のノウハウを自動車教習所へ提供しています。（一社）沖縄県指定自動車学校協会（以下､協会）は､高次脳機能障がいを持った方が回復後にクルマの運転を再開したいというニーズに対応するために（一社）沖縄県作業療法士会と共催で､９月に「沖縄県障がい者運転復帰に向けた教習所指導員講習会」を開催。講師となったHondaの交通教育センターのインストラクターが津嘉山自動車学校、北丘自動車学校、普天間自動車学校、名護自動車学校の教習指導員に自操プログラムのノウハウを伝えました。県内１８病院から参加した作業療法士は患者役となって、手でアクセルとブレーキを操作する補助装置などが付けられた教習車両を運転し、教習指導員による自操プログラムを体験しました。多くの作業療法士が補助装置の付いたクルマを運転した経験がなかったので「操作の難しさを実感できて良かった」「補助装置の利用を患者様やご家族に勧める際の役に立つ」という声が聞かれました。講習会を受講した普天間自動車学校次長の島尻繁さんは「このプログラムは、実際の運転場面をふまえた奥深い内容だと感じました。今後、当校でも取り入れたいと思います」と自操プログラムを評価しています。協会専務理事の下地一彦さんは「この講習会を機に運転免許課、自動車教習所、作業療法士等と連携を深め、病気や怪我で運転を中断している患者様が一人でも多く運転復帰できることを祈念します」と今後の抱負を語りました。

移送安全運転プログラムを活用した Honda Cars による送迎安全運転講習会

Honda Cars 大阪による送迎安全運転講習会

利用者に負担をかけない運転操作を練習
※車内のゆれの大きさを体験するため、シートベルトを外しております

Honda は NPO法人と連携して福祉施設の送迎運転者に移送安全運転プログラム（以下、移送プログラム）を受講してもらうための取り組みを行なっております。各地域の NPO 法人の指導者が移送プログラムを適切に運用できるようにするためのマニュアル作成を進めているところです。
さらに､今年からは福祉車両を販売している Honda Cars（四輪販売会社）とも連携。Honda Cars 大阪は３月に送迎安全運転講習会を開催しました。同社の呼びかけに応じた近隣の福祉施設の送迎運転者や管理者が移送プログラムを受講。Honda の交通教育センターのインストラクターの指導のもと、利用者に負担をかけないアクセルとブレーキの操作を身につけました。講習会を企画した同社新車営業部法人販売課チーフの佐藤吉伸さんは「車両と安全運転教育をセットで提供していくことは、お客様である福祉施設の皆様の困りごとの解決につながるので、今後も継続していきたい」と話しています。このような講習会は京都府や兵庫県、滋賀県でも開かれています。
また、北海道でも開催が検討されており、継続して自らが講習会などを通じて安全を手渡しできるよう、指導者養成も合わせて展開を予定しています。

現地の交通事情に応じて展開される安全運転普及活動を支援

海外における安全運転普及活動は、日本と同様に「手渡しの安全」「参加体験型の実践教育」を基本とし、海外事業所が主体となって展開しています。活動は、販売店でのお客様への安全アドバイス、交通教育センターでの運転者教育、女性のお客様や子どもを対象とした安全教育を中心に政府や関係団体と連携しながら進められています。Honda は各国の交通事情に即した様々な活動が活発に展開されるよう支援しています。

アジア地域における四輪車の安全運転啓発活動展開を強化

アジア地域における安全な交通社会の実現に向けて、Honda は地域本社である Asian Honda Motor Co., Ltd. と連携し、域内四輪販売店における安全運転啓発活動を標準化し、展開しています。一人でも多くの四輪ユーザーに、より高いレベルの安全運転啓発活動を展開するために、アジア５現地法人の推進担当者が日本での販売店向け研修に参加、指導スキルのレベルアップを図りました。

アジアの担当者への四輪車研修

ベトナムにおける安全運転普及活動の推進と進化

交通教育センター

Honda Vietnam Co., Ltd. は今年３月に新しい交通教育センターを開設。従来の二輪車の運転免許取得講習に加えて、四輪車の運転免許取得前講習を開始しました。また、政府関係機関と協力し、四輪指導員の競技大会を開催するなど、ベトナムの交通安全にも寄与しています。

四輪車研修

Honda は新交通教育センターのレイアウトや運営に関するアドバイスを実施。さらに、日本の交通教育センターのインストラクターを現地に派遣し、乗車スキルや指導方法のレベルアップにむけて、現地インストラクターへの研修を実施しました。今後、さらなる現地での安全運転普及活動の推進が期待されます。

日本の交通教育センターと連携した海外事業所インストラクターの育成

Honda Taiwan 販売会社インストラクター研修

レベルアップ研修

Honda Korea への研修

Honda は、日本とは交通事情や免許制度などが異なる環境下にある海外事業所に対し、日本の交通教育センターと連携して、インストラクターの育成を行っています。台湾本田股分有限公司（Honda Taiwan Co,. Ltd.）へは、２０１５年３月から、安全アドバイスやライディングスクールを行う、販売会社インストラクター研修を日本で開催。現在、１６名のインストラクターが活動しています。Honda Korea Co., Ltd. の従業員及び販売会社に対しては、今後の活動の展開に向けて、活動をより深く、理解いただく研修を日本で開催しました。また既に各国で活動している９カ国３２名のインストラクターを対象に、指導スキルと運転スキルのレベルアップを図るための研修を開催。さらなる活動の活性化を目指します。

Safety Driving Managers Meeting を開催

今年１０月、鈴鹿サーキットで海外の活動を推進する各国事業所の代表者による Safety Driving Managers Meeting を開催。海外からは７カ国８事業所の 11 名が出席、日本からは各交通教育センターの代表者が出席し、互いに活動を紹介し意見を交換し、今後の活動に有効な情報を共有しました。

Safety Driving Managers Meeting